

遊び場開放事業の拡充について

報告内容

遊び場開放事業について、令和7年度から新たなイベントの実施や事業名を「みんなとジョイスポ事業」に変更することにより、事業の魅力を高め、参加者の増加を図ります。

また、事業の利用対象者について、令和7年度から一部の学校施設において、高校生まで拡大します。

1 遊び場開放事業の概要と課題

(1) 事業内容

学校施設開放（スポーツ団体等への施設貸出し）とは別に、学校教育に支障のない範囲で、区立小学校の校庭又は体育館を、地域の子どもたちの安全な遊び場として開放する事業です。

ア 対 象 原則として、通学区域内に在住する小学生及び付添いのある幼児

イ 開放日 土日・祝日、長期休業期間（夏休み・春休み）のうち年10回程度

ウ 時間枠 ①9時～12時、②12時～15時、③15時～18時のうち1日1コマを実施

【事業実績】

年度	元	2	3	4	5	6(12月まで)
学校数 (校)	17	17	18	18	18	18
実施回数 (回)	239	182	134	162	147	123
参加者数 (人)	3,933	3,678	2,273	2,612	1,673	1,155
1回あたり (人)	16	20	17	16	11	9

(2) 課題

近年、学校施設開放の登録団体の増加等により、遊び場開放の実施回数が減少しており、それに伴い参加者数が大きく減少しています。一方、子どもが身近な場所で、安全に身体を動かして遊ぶことができる機会の充実が求められていることから、遊び場開放事業の実施回数を確保し、多くの子どもが参加するよう運営方法等の工夫が必要です。

また、中学生及び高校生がボール等を使って気軽に運動できる場所がほしいといった意見が寄せられており、登録団体を利用対象とした学校施設開放とは異なる、中学生及び高校生の運動場所の確保が必要です。

2 今後の取組について

(1) 新たなイベントの実施

遊び場開放事業への子どもの参加を促すため、これまで、開放の実施と合わせて、けん玉や竹馬などの昔遊び体験イベントを開催してきました。

令和7年度から、昔遊びだけでなく様々なイベントを取り入れ、事業の魅力を高めることにより、多くの子どもの参加と運動するきっかけづくりを更に促進します。

【例】遊び場開放での「JUMP-JAM (ジャンジャン)」の実施

(令和7年1月25日(土)に試行実施)

ナイキジャパンが取組をサポートする子どもたちの運動遊びプログラム「JUMP-JAM (ジャンジャン) ※」を遊び場開放事業でのイベントとして実施しました。

※ ナイキジャパンと一般財団法人児童健全育成推進財団が子どもたちのための運動遊びプログラムとして開発した、ゲーム形式で楽しみながら身体を動かすことを促す取組。

◇日 時：令和7年1月25日(土)

13時30分～14時15分

◇場 所：本村小学校校庭

◇対 象：原則、通学区域内に在住する小学生

◇参加者：40名(子ども25名・大人15名)

◇講 師：社会福祉法人 東京聖労院職員

金本 伸一氏 他2名



(2) 事業名の変更

子どもや保護者が親しみやすく、参加したいと思える事業とするため、令和7年度から事業名を「みんなとジョイスポ事業(※)」に変更します。

※ ジョイ(JOY)は楽しむ、スポ(SPORTSとSPOT)は運動と場所という意味があり、港区の子どもたちにとって「みんなと運動を楽しめる場所」になってほしいという願いがこめられています。

(3) 利用対象者の拡大

令和7年度から、事業の利用対象者として、現在の「通学区域内に在住する小学生及び付添いのある幼児」に、「開放施設の通学区域内に在住する中学生及び高校生」を追加し、中学生及び高校生の運動場所の確保を図ります。

令和7年度は、小中一貫校である白金の丘学園において、中学生及び高校生を対象と

した開放を試行的に実施し、その結果等を踏まえて他校への拡大を検討します。なお、試行実施に当たっては、利用の仕方や安全面を考慮し、幼児及び児童を対象とした開放とは時間帯を分けて行います。

3 今後のスケジュール（予定）

令和7年 4月～ 事業名変更及び利用対象者を高校生まで拡大

4月～7月 中学生及び高校生を対象とした開放の試行実施（白金の丘学園）